

学習内容報告書 フォーマット

学校名	新潟県立佐渡総合高等学校
授業者	新潟県立佐渡総合高等学校 教諭 金澤郁馬 教諭 中村達希 教諭 茂野知弘

1. 単元計画

1-1. 単元名

ふるさと佐渡未来探究学

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」

1-4. 単元の概要

- 5月13日（金）講義（株式会社能水商店 松本将史様） 2時間
- 5月20日（金）講義（北陸信越運輸局海事部船員労政課 川口秀一 様
佐渡汽船シップマネジメント株式会社 船長 伊藤慎二 様） 2時間
- 6月24日（金）講義 探究学習の基本、働くこと、勤労に関して 2時間
東京大学大学院 田口康大特任講師（zoomを活用したオンライン講演）
- 7月1日（金）講義 インタビュー内容・心構え・撮影練習について 2時間
みなとラボ 小倉快子 様 梶川萌 様
- 7月8日（金）アポイントメントの電話をかける心構え・内容・話し方について
アポイントメント取り 2時間
- 7月29日（金）インタビューシート作成・模擬インタビューと写真撮影練習 2時間
夏季休業期間中 インタビューの実施
- 9月2日（金）インタビューの文字起こしと写真の送付 2時間
- 9月9日（金）インタビュー原稿の作成 2時間
- 10月14日（金）編集者からの訂正を確認し、打ち直し 2時間
- 1月20日（金）成果発表会に向けたスライド作成 2時間
- 1月27日（金）成果発表会に向けたスライド作成 2時間
- 2月24日（金）成果発表会（学年内） 2時間

1-5. 単元設定の理由・ねらい

佐渡には、高齢化や職業の減少など、数多くの課題が山積している。そのような中で、島内唯一の産業教育を受けることのできる本校の担うべきことは多い。

本校の生徒が1年次に履修する「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」において、生徒自身が2年次以降に進む系列にかかわる職業人へのインタビューを通して、自己の生き方あり方を見つめ、ひいては職業観や勤労観を身につけるとともに、コミュニケーション能力の育成を図りたい。また、佐渡に現存する職業と海に囲まれた佐渡の歴史や良さについて、インタビューをとおして肌で感じることをねらいとした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ 聞く力や話す力をはじめとしたコミュニケーション能力
- ・ 故郷である佐渡と海の恵みについての理解
- ・ 職業生活に必要な勤労観、職業観や態度

1-7. 単元の展開（全24時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	地域・企業連携について	株式会社能水商店 松本将史 様 振り返りシート記入量
2	海運、船員の仕事、佐渡汽船の役割について	北陸信越運輸局海事部船員労政課 川口秀一 様 佐渡汽船シップマネジメント株式会社 船長 伊藤慎二 様 振り返りシート記入量
2	探究学習の基本、働くこと、勤労について	東京大学大学院 田口康大特任講師 振り返りシート記入量
2	インタビュー内容・心構え・撮影練習について	みなとラボ 小倉快子 様 梶川萌 様 振り返りシート記入量
2	アポイントメントの電話をかける心構え・内容・話し方について、アポイントメント取り	本校1学年所属教職員 振り返りシート記入量
2	インタビューシート作成・模擬インタビューと写真撮影練習	本校1学年所属教職員 インタビューシート記入量、模擬インタビューの取り組み方
2	インタビューの文字起こしと写真の送付	本校1学年所属教職員
2	インタビュー原稿の作成 2時間	本校1学年所属教職員
2	編集者からの訂正を確認し、打ち直し	本校1学年所属教職員
2	成果発表会に向けたスライド作成	本校1学年所属教職員 スライド資料の量やわかりやすさ
2	成果発表会に向けたスライド作成	本校1学年所属教職員 スライド資料の量やわかりやすさ
2	成果発表会（学年内）	本校1学年所属教職員 発表のわかりやすさや話し方、振り返りシート記入量

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

「働く」の多様さ、またその多様さから見えてくる「生きる」の多様さを体感するプロジェクトへ導入する。そのために本時では、「働く」の意味を問い直し、「労働／仕事」をこえた人間関係や自己形成の意味合いが「働く」に含まれることを確認するとともに、実際に「働く」人のユニークな働き方・生き方を聞き取り、その多様さ・深みの一端に触れる。これら2つの活動から本プロジェクトの前提となる問い「「働く」とはなんだろう？」を共有したうえで、本づくりの意義・面白を確認してプロジェクトの目的を共有する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">○ プロジェクトについての説明○ レクチャー「働くとは？」○ 生徒ワーク①「「お金に困っていない」としたら、あなたは一生働かない？」○ レクチャー「労働には“生きる糧を稼ぐ”以外の意味もある」○ 生徒ワーク②「誰かが「いてくれて」よかったと思ったことはある？」○ プチインタビュー「聞くこと」を体験	<ul style="list-style-type: none">○ 東京大学大学院の田口康大特任講師より（zoomを活用したオンライン講演）○ 田口特任講師が作成してくださったワークシートへ自分の考えを記入し、近くの生徒同士で考えをシェアする。○ 田口特任講師が作成してくださったワークシートへ自分の考えを記入し、近くの生徒同士で考えをシェアする。

3. 今回の活動の自己評価

今回の事業は一昨年度に本校1学年が実施した授業を再構築し、「ふるさと佐渡未来探究学」の第2弾としてスタートさせたものであり、海に囲まれた佐渡で暮らすこと、働くことをテーマに職業人へインタビューをまとめた冊子「あなたと出会った佐渡」の発刊をメインの活動として行ったものである。前回に引き続き、東京大学大学院の田口康大特任講師をはじめ、みなとラボ、写真家や編集者の方々からご協力いただいたことで、年間通して活動の流れをスムーズに進めることができた。

前回の事業との相違点としては、生徒の中から冊子編集委員を募り、授業の中で「作らされる本」でなく、自らが作り上げる「愛着のある本」を目指し、編集部独自のページや島や海に対する思いを語り合う座談会の様子などを盛り込んだ点が挙げられる。また、冊子のレイアウトやデザイン、配色等も生徒が主体となって決めている。

本校は島内で唯一の専門教育を学ぶことのできる高等学校であり、「農業」や「工業」を学ぶ生徒の中には、一定数、高校卒業後に就職する生徒がいる。そのような現状の中で、興味のある職業人にインタビューを実施した結果、働くことを自らの生き方あり方と照らし合わせ、将来に対して真剣に考え始めた生徒が多く見られたことから生徒の成長を実感している。

4. 今後の課題

インタビュー原稿の作成や訂正、写真の提出が遅れ、冊子の完成が大幅に後ろ倒しになってしまった。そのため、当初考えていた冊子の販売活動やSNS等を利用した宣伝活動、地域の方やインタビューに協力してくださった方々を招いての成果発表会を行うことができなかった。今後授業としてその時間を確保することができないため、編集委員や有志の生徒を募って1学年時に行うことのできなかった活動を行っていききたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本事業を実施前に、学年団や学校内運営組織で綿密な計画作成を行うこと。また、生徒共に本事業のゴール（目標）をしっかりと共有すること。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。